

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

**音響透かしと音響フィンガープリントを用いた
偽・誤情報対策クラウドシステムの開発・実証
成果報告書 簡易版**

2026/3/19

技02_エヴィクサー株式会社

音響透かしと音響フィンガープリントを用いた偽・誤情報対策クラウドシステムの開発・実証

<p>アプローチする課題・目指す姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音声生成AIの急進歩により真偽判別が難しく、導入インセンティブの弱さから社会実装も進みにくい。しかし詐欺電話対策などには即応性が不可欠だ。そのため、高精度かつリアルタイムな検知技術の開発と、普及を促進する仕組み作りが強く求められている。 生成AIや詐欺電話など巧妙化する偽情報に対し、音響透かし・フィンガープリントを活用した高精度かつ即時的な真偽判定技術を確立。放送局や通信・プラットフォーム事業者が、信頼ある情報を容易に発信・判定できる情報流通環境の実現を目指す。 		
<p>技術区分</p>	<p>真正性保証・信頼性判断支援・改ざん検知技術（信頼性判断・改ざん検知／電子透かし）</p>	<p>実施体制 (下線：技術開発主体)</p>	<p>エヴィクサー株式会社、TMI総合法律事務所（再委託先）、一般社団法人CiP協議会（再委託先）、株式会社IP Bridge（再委託先）、大坪太郎（再々委託先）</p>
<p>対象とするモデル種</p>	<p>音声、動画</p>		

技術開発の取組・成果

- EAF2024（Evixar Audio Forensicsの略称で、ここでは2024年度に本実証事業で開発したソリューション全体を指す）の精度向上と開発：AI判定エンジンの精度向上と対応モデルを拡充。併せてUI/UXやレポート機能の改善も実施。
- 音響透かし・フィンガープリント活用のキャンペーン構築：登録素材でのキャンペーン機能実装により導入インセンティブを付与。Webベースの検出連携で手軽な実施を実現。
- リアルタイム透かし埋め込みと検出：ストリーミングやIP電話網での利用を想定し、既存の仕組みをストリーム処理可能なりアルタイム機能として実装。

社会実装に係る取組・成果

- 「シーズ起点」と「多分野での同時並行PoC」を戦略の柱とし、以下の実証を通じて技術の有効性とビジネスモデルを検証した。
- 行政：京都府
 - ODM提供：シャチハタ株式会社
 - イベント：聴覚障害者のための世界規模の総合スポーツ競技大会、リーグ「アルバルク東京」のホームゲーム（トヨタ・モビリティ基金「Mobility for ALL」プロジェクトの実証実験）
- 数千人規模の同時アクセス下での安定稼働を実証し、ユーザ参加型の新たな価値提供を実現した。
- 連携模索：台湾ChungHwa Telecom社、株式会社radiko

技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

技術開発の観点：

- 課題：AI生成技術の進化速度は速く、新たなモデルに常に対応し続けるための、継続的なアルゴリズム更新が不可欠である。
- 対応：引き続き多様なAI音声のデータセットを拡充し、判定エンジンの学習と精度向上を推進。新モデルへの迅速な対応プロセスを構築する。

社会実装の観点：

- 課題：偽情報対策という「守り」の価値に加え、導入企業の投資に見合う「攻め」の付加価値（事業メリット）の提示が不可欠である。また、業界ごとに異なるニーズに合わせたビジネスモデルの具体化も課題である。
- 対応：PoCの成果を基に、キャンペーン機能による収益向上など、費用対効果を明確に訴求する。SaaSやODMといった、業界の特性に合わせた柔軟な提供形態と料金体系を確立し、本格導入を推進する。

代表者コメント



エヴィクサー株式会社
取締役COO
鈴木久晴

本事業を通じて、音響透かしと音響フィンガープリントを組み合わせた偽情報に対抗する技術を前進し、行政・放送・通信からエンターテインメントまで多様な現場でその有効性を実証できたことは、大きな成果です。今後はパートナーとの連携をさらに強化し、本技術が安心・安全なデジタル社会のインフラとなるよう、その普及と発展に努めてまいります。

(注) ODM (Original Design Manufacturing) とは、他社ブランドの製品を、企画・設計から製造まで一貫して受託するビジネス形態です。ブランド側は企画・販売に集中し、受託側は専門的な技術力で開発・製造を担当することで、低コストかつ短期間での製品化が可能になるメリットがあります。